令和７年度香川大学入学式　学長告辞

本日、オープン間もないここ「香川県立アリーナ」で、池田 豊人香川県知事、加藤 昭彦高松市副市長、伊藤 良春三木町長、淀谷圭三郎香川県教育長、対馬健三香川大学 校友会副会長をお迎えして、令和 7 年度香川大学入学式を挙行できますことは、私たちにとりましてこの上ない喜びです。香川大学に入学された学部１，３２７名、大学院３８０名、計１，７０７名の皆さん、ご入学誠におめでとうございます。心から歓迎いたします。今日まで支えて来られたご家族や関係者の皆様にもお慶び申し上げます。また、本日、ご参集くださいました地元企業の皆様、同窓生を始めとする本学関係者の皆様にも感謝申し上げます。

香川大学は、瀬戸内海に面し、四国の玄関口として発展してきた香川県において唯一の国立大学として、1949 年に創立し、地域の皆様に支えられて昨年、創立 75 周年を迎えました。教育学部・法学部・経済学部・医学部・創造工学部・農学部の６つの学部と、創発科学研究科・医学系研究科・農学研究科の３つの大学院、そして専門職大学院として教育学研究科と地域マネジメント研究科から成ります。「持続可能な地方分散型社会の実現に貢献する人材の育成と研究の推進」をビジョンに掲げ、「地域に根ざした学生中心の大学」として日々教育・研究に励みつつ、香川県を中心とした瀬戸内エリアの活性化に積極的に

取組んでいます。

新入生の皆さんはこれから所属学部・研究科において、最先端の専門知識や技術をしっかりと学び、学習成果を将来の活躍につなげて下さい。一方、私たちが生きるこの社会は、人口減少・地球温暖化・人工知能（AI）の発達などにより急速に変化し、先の見通しが不透明であると言われています。高度化・複雑化した社会を生き抜くためには、所属学部や研究科とは関係なく、あるいは文系と理系の垣根を超えて物事の本質を見極めることが大切です。既成概念にとらわれずに柔軟に発想することで、新たな課題を発見し、その解決法を考え、そして解決に向かって実際に行動する能力をどうか身に付けて下さい。そのために、香川大学では、デザイン思考（D）、リスクマネジメント（R）、インフォマティクス（Ｉ）の頭文字を取って名付けた「DRI 教育」を始めとして、多数の授業科目を用意しています。また、本日の第 2 部「新入生歓迎セレモニー」でもご紹介しますが、さまざまなサークル活動や学生プロジェクトが皆さんの参加を待っています。これらの活動は、皆さんを地域社会と結び付け、友人や先輩後輩との出会いの場となり、あるいは組織運営などを通じてリーダーシップを身に付ける貴重な機会となることでしょう。私たちは、授業や課外活動を通じて皆さんの学びと人間的成長を後押しする所存です。どうか今日、改めて自分にとって大学に入学したことの意味を考え、卒業までの目標を立て、勇気を奮ってさまざまなことにチャレンジしてください。

大学は学びの場であるとともに、研究を行うところです。研究と聞くと難しそうなイメージを抱く方もおられるかもしれませんが、本来は楽しいものです。世界の不思議の謎解きであったり、人々に幸せをもたらす物を発見したり、社会生活をもっと便利に、もっと豊かにする技術の開発であったり、テーマはさまざまです。香川大学発の研究成果といえば、一番に出てくるのが「希少糖」の開発と実用化です。希少糖とは自然界に僅かしか存在しない糖のことであり、本学農学部の何森教授が、当時、誰もが見向きもしなかった希少糖に光を当て、製造方法や特性、さらには健康に役立つ作用について研究を進めました。今も香川大学は希少糖研究で世界をリードしており、国際希少糖学会の本部も香川大学にあります。希少糖の多くは甘味があるにもかかわらず、カロリー・ゼロで、血糖値の上昇抑制や脂肪の燃焼促進といった健康増進作用を示すため、食の未来に新たな可能性をもたらすものと期待されており、世界 16 カ国で販売が始まっています。その用途は、食品分野から、医療・農業・工業にも広がる可能性を秘めています。

もうひとつの重要な研究テーマは、瀬戸内海の環境問題です。私たちは瀬戸内海で、海草・藻場・干潟の生物群集の生態調査や、二酸化炭素の吸収や稚魚の生育につながる藻場の造成機能をもつ人工漁礁の設置、さらには、生態系をトータルで評価する研究を進めています。また、東京芸術大学と連携して、瀬戸内海の海や島や沿岸部を舞台にして「アートと科学技術による『心の豊かさ』

を根幹としたイノベーション創出と地域に根差した課題解決の広域展開」というプロジェクトも進行中です。瀬戸内海国立公園は日本初の国立公園であり、風光明媚な眺めは私たちを魅了しますが、その一方で、海洋環境の悪化や、離島の過疎化・高齢化による社会問題などを抱え、わが国が直面する「地方の未来の縮図」とも言われています。私たちの研究は、全国各地でも役立つ、先駆的な事例になることが期待されています。

大学では、教員の指導の下、大学院生が研究の主体を担っています。今後、文系・理系を問わず、大学院で研究を通して専門分野の知識やスキルを深めることがますます重要になると考えられます。本日の式典には、大学院の入学生も出席されています。学部学生の皆さんには、卒業後、大学院への進学の道が開かれていることを、どうか知っておいてください。

皆さんの中には、入学を機に初めて香川県に住む方も多くおられると思います。香川県は讃岐うどん発祥の地として、そして日本でもっとも面積の小さな県として知られていますが、気候も風土も住んでいる人も皆、穏やかで、他所から来た人にとっても住みやすいところだと言われています。大学においても、学生生活上の困りごとに対して親身になって相談に応じる体制を整えていますので、何かありましたら一人で悩まず、気軽に大学の相談窓口に来てください。皆さんが香川大学に入学して良かったと心から思って頂けるよう、そして、皆さんにとって香川が第２の故郷となるよう、教職員一同、努力して参ります。

最後に、新入生の皆さんが健やかに過ごされ、充実した大学生活を満喫されますことを心より祈念して、告辞とします。本日は誠におめでとうございます。

令和７年４月２日

国立大学法人 香川大学長

上田　夏生